



独立行政法人 地域医療機能推進機構
東京新宿メディカルセンター

交通のご案内



電車

JR 総武線（中央線各駅停車）／飯田橋駅東口 徒歩 5 分
東京メトロ 東西線・有楽町線・南北線／飯田橋駅（B1 出口） 徒歩 4 分
都営大江戸線／飯田橋駅（C1 出口） 徒歩 3 分

*当院に一番近い地下鉄出口「C1」は、都営大江戸線利用の場合のみ便利です。
地下鉄で車椅子等でお越しの方は、南北線後楽園駅寄りの改札前にある「地上
行きエレベーター」をご利用ください。

バス

都営飯田橋駅前←→小滝橋車庫（飯 62）（昼間だけの運行です。）
東京新宿メディカルセンター前 下車すぐ
小滝橋車庫前←→九段下（飯 64）
飯田橋 下車 徒歩 5 分



独立行政法人 地域医療機能推進機構
東京新宿メディカルセンター

〒162-8543 東京都新宿区津久戸町 5-1
電話 03-3269-8111（代表）

JCHO 東京新宿メディカルセンター で検索

独立行政法人 地域医療機能推進機構 Japan Community Health
care Organization を略し「JCHO」となり、ジェイコーと読みます。

Japan Community Health care Organization Tokyo Shinjuku Medical Center

*新型コロナウイルス感染症対策のため内容が変更になっている場合があります。

*2024 年 8 月 1 日現在

JCHO 東京新宿メディカルセンター ご案内

【地域が創る病院 病院が創る地域】

地域の中核病院として、良質な医療を提供するとともに、
住民一人ひとりの生活を尊重し、
安全で安心できる地域社会の実現に貢献します。



ごあいさつ



JCHO東京新宿メディカルセンター
院長 関根 信夫

当院は昭和27年(1952年)の開院以来、東京厚生年金病院として長らく、地域の方々をはじめ広く国民の皆様方の病気の治療と健康維持に力を尽くしてまいりました。平成26年(2014年)4月からは独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO、ジェイコー)の病院として、より一層地域医療に貢献すべく基幹病院としての責務を果たすことが求められています。そして、令和の幕開けとなった2019年8月28日をもって当院は東京都知事より『地域医療支援病院』の承認を受けました。地域の医療機関の先生方との堅固な連携のもと、それぞれの役割を尊重しながら、当院が持つ診療・病床機能を存分に発揮していく所存です。

さて、昨今は2020年来の新型コロナウイルス感染症のパンデミックや毎年のように発生する地震・豪雨といった自然災害など、私たちの生活を脅かす様々な要因が国民の不安や閉塞感をもたらしています。災害拠点病院としての役割も担う当院として、常に危機管理対策を怠ることなく、従来果たすべき診療業務を維持していかなければなりません。

当院は、地域医療支援病院となつての新たな抱負として、『地域が創る病院、病院が創る地域』を掲げ、住民の皆様方、そして医療機関の先生方のニーズにしっかりと応えることで、地域に求められ愛される病院となること、そして警察や消防などと同様に地域の安心・安全の基盤を支え、良質な医療の提供を通じて、住民一人ひとりの生活を尊重しつつ幸せな地域社会の実現に貢献することを使命といたしました。そのために、地域医療機関、行政機関との連携はもちろんのこと、住民の皆様との触れ合いを大切にしながら病院の役目を果たしていきたいと思ひます。

当院の診療部門には、各専門分野に熟達した専門医のもと日々研鑽を積む、次代を担う若手医師・研修医、そして医師の診療を支える多数の医療スタッフが、職業人としての意識を高く持って業務に従事しています。救急を含めた急性期医療から生活習慣病など種々の慢性疾患やがんの加療、リハビリテーション、在宅医療支援、そして緩和ケアまで、当院は様々な局面で皆様方の療養に関わり、安心して医療が受けられるよう力を尽くしてまいります。

当院は都心の、きわめて交通の便の良い飯田橋駅のすぐ近くに立地していますが、ふと近隣に目を向けていただくと、旧くて新しい街、国内外の人々が数多く足を向けるホットスポット神楽坂があり、活気と安らぎが混在する、人間味あふれる土地柄が感じられます。私たちも、皆様に愛される病院となるよう、そして何よりも皆様の病気や健康についてのご心配が少しでも和らぐよう、切に願っております。

ジェイコー JCHO理念

我ら全国ネットのJCHOは
地域の住民、行政、関係機関と連携し
地域医療の改革を進め
安心して暮らせる地域づくりに貢献します

■キャッチフレーズ

安心の地域医療を支えるJCHO

■沿革

昭和27年10月	病院開設許可
昭和27年11月	整形外科、外科、内科の3科にて診療開始(病床数66床)
昭和28年10月	南棟4階58床増設
昭和29年10月	西棟3、4、5階改造(病床数316床)
昭和32年9月	別館増築200床増床(普通510床、伝染6床)
昭和33年4月	高等看護学院開院(現在の附属看護専門学校)
昭和40年10月	別館神経科病棟16床増床、伝染6床廃止
昭和62年6月	南棟解体
平成元年10月	A棟竣工(本館)地下4階地上8階
平成2年3月	西棟解体
平成5年10月	B棟竣工(本館)地下4階地上8階
平成6年3月	別館棟解体
平成9年3月	別館竣工(健康管理センター開設)
平成10年1月	東棟解体
平成12年3月	外来棟竣工(地下4階地上1階)
平成15年2月	回復期リハビリテーション病棟開設78床
平成15年11月	病床数変更届出(一般520床)
平成16年6月	緩和ケア病棟開設18床(現在20床)
平成21年8月	電子カルテシステム導入
平成26年4月	組織替えにより病院名変更 「独立行政法人地域医療機能推進機構 東京新宿メディカルセンター」へ改称
平成26年7月	地域包括ケア病棟開設41床
平成28年8月	訪問看護ステーション「なないろ」開設
平成30年11月	患者サポートセンター開設

基本方針

1. 地域医療支援病院・東京都がん診療連携拠点病院・東京都災害拠点病院として、地域住民・地域医療機関・行政機関と連携し、地域住民の健康を守ります。

2. 超高齢社会に適した急性期・回復期医療の実践と在宅医療の支援を通じ、一貫したケアと多職種によるチーム医療を提供します。

3. 高度な医療、救急診療を提供するために必要な医療体制の整備拡充に努めます。

4. 『地域が創る病院、病院が創る地域』の標語のもと、地域における役割と責任を自覚し、医療を通じて社会の発展に寄与します。

5. 職員が誇りを持って充実した仕事ができる環境を整備し、働きがいのある健康で安全な職場を作ります。

平成12年10月23日制定
平成17年 3月14日改定
平成22年 2月22日改定
平成26年 3月10日改定
令和 2年 4月 1日改定

概要

■概要

開設者	独立行政法人 地域医療機能推進機構
開設年月日	昭和27年10月22日(平成26年4月1日に東京厚生年金病院より現在の名称に変更)
許可病床	520床
診療科	整形外科/脊椎脊髄外科/形成外科/リハビリテーション科/リウマチ科/外科/呼吸器外科/消化器外科/乳腺外科/脳神経外科/脳神経血管内治療科/内科/消化器内科/循環器内科/呼吸器内科/腎臓内科/糖尿病内分泌内科/血液内科/緩和ケア内科/脳神経内科/膠原病内科/皮膚科/泌尿器科/産婦人科/眼科/耳鼻咽喉科/小児科/精神科/放射線科/放射線診断科/放射線治療科/歯科/歯科口腔外科/麻酔科/病理診断科/救急科

■規模

敷地面積	9,006.66㎡
建築面積	6,311㎡
延床面積	48,039.25㎡

■職員数

医療職	151名	教育職	9名
医療技術職	165名	福祉職	6名
看護職	467名	療養介助職	26名
事務職	54名	介護福祉職	2名
		計職員数	880名

(2024年8月現在)※任期付・非常勤職員含む

■外来診療・面会時間

外来診療	受診時間
	受診受付時間 午前8時30分～午前11時30分
	診療開始時間 午前9時～
	休診日 土曜、日曜、祝日、年末年始

当院は、地域医療支援病院です。受診される際は、他の医療機関からの紹介状(診療情報提供書)をお持ちください。

紹介状(診療情報提供書)をお持ちでない場合は、診療をお断りすることがあります。

紹介状をお持ちの方は、あらかじめ予約をお取りください(外来予約センター 電話 03-3269-8180)

マイナ保険証・健康保険証をお持ちください

初診時選定療養費について

「地域医療支援病院」では、他の医療機関等からの紹介状(診療情報提供書)を持たない初診の方から、診療費とは別に初診時選定療養費を徴収することが国より義務化されております。金額については、初診窓口にお問い合わせください。

面会 新型コロナウイルス感染症拡大防止及び病院安全の観点から面会時間を下記のとおりとしております。最新情報は、ホームページをご覧ください。

平日 14:00～17:00

※病院内で感染症にかかってしまう可能性がありますので、当院では感染防止の観点から、特別の場合を除いて小学生以下のお子様の面会をご遠慮いただいております。患者さまへの感染を防止するためにも、ご協力くださいますようお願いいたします。

※感染を防止するため、施設内におけるベットの面会・生花・プリザーブドフラワーなどの持ち込みは原則お断りします。

■指定・認定等

指定・認定	・二次救急指定病院 ・臨床研修指定病院(H16.3.31) ・地域医療支援病院(R1.8.28) ・新宿区在住療養者緊急一時入院確保契約病院(H11.4.1) ・東京都CCUネットワーク加入施設(H17.7) ・DPC対象病院(H20.4.1) ・日本医療機能評価機構認定【3rdG:Ver.2.0】(R5.3.10) ・NPO法人 卒後臨床研修評価機構認定(R5.3.1) ・文京区在宅療養者一時入院協力病院(H24.4.1) ・東京都災害拠点病院(H27.2.27) ・特定行為研修指定研修機関(H28.2.10) ・東京都がん診療連携協力病院(R5.4.1)
施設基準等	・急性期一般入院基本料1 ・緩和ケア病棟 ・回復期リハビリテーション病棟 ・ICU病棟 ・地域包括ケア病棟

施設紹介

病棟

本館棟	外来棟	別館棟
8F 8A病棟 8B病棟		
7F 7A病棟 7B病棟		
6F 6A病棟 6B病棟		6C病棟
5F 5A病棟 5B病棟		5C病棟
4F 4A病棟・研究室 4B病棟 医療安全管理室・感染対策室・看護ケア推進室		4C病棟
3F ICU・手術室・麻酔科・中央材料室		医局
2F 人工透析室・病理診断科・中央検査室・外来化学療法室・講義室・弁当販売・イートインスペース		健康管理センター 管理部門(事務部)
1F 医事課・救急総合診療部・警務室・防災センター・総合案内・受付・コンビニ・患者サポートセンター・医療情報ライブラリー・患者さま図書コーナー		リハビリテーション室
B1F 生理機能検査室・内視鏡室 放射線科(CT室・MRI室・血管造影室) 結石破砕室	外来診療室(整形外科・形成外科・外科・脳神経外科・脳神経血管内治療科・内科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科・脳神経内科・血液内科・緩和ケア内科・小児科)・中央採血室・栄養相談室3	
B2F 放射線治療科(ライナック室・トモセラピー室) RI室・会議室・薬剤部	外来診療室(内科(生活指導)・糖尿病内分泌内科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・精神科・歯科・歯科口腔外科・脊椎脊髄外科)・栄養相談室2・ベビーコーナー	図書室・会議室・洗濯室(リネン庫)
B3F 駐車場・中央監視室(電気・ボイラー)	栄養管理室	
B4F 駐車場・機械室・中央病歴室	駐車場	

施設設備



総合案内



健康管理センター



特S室



外来受付



外来化学療法室



別館棟



ナースステーション



人工透析室



屋上庭園がある緩和ケア病棟

特徴

地域医療支援病院

当院は、2019年8月に東京都知事より医療法に基づく「地域医療支援病院」の承認を受けました。これを機に、地域の医療機関との連携を強化し、地域の皆さまに安心していただける心のこもった医療の提供になお一層努めてまいります。「地域医療支援病院」とは、地域の医療機関(かかりつけ医)との役割分担と連携を図り、地域医療全体の充実を図ることを目的とした制度となります。

紹介外来制 当院では、地域の「かかりつけ医」等と連携した診療を行っています。病気やけがの日常的な診療や、健康管理上のアドバイスは「かかりつけ医」が受け持ち、専門的な検査や入院治療、救急医療は地域の中核病院である「当院」が担います。

二人主治医制 急性期の治療が終了し病状が安定した場合は、「かかりつけ医」や回復期治療を専門とする病院などに転院・ご紹介させていただきます。患者さま一人に対し、当院の医師と地域のかかりつけ医が互いに連携しながら共同で継続的に治療を行うことを推進しています。患者さまは不要な検査や投薬を受けずに済み、どちらに受診しても適切な治療を受けることができます。

共同利用 地域の医療機関と連携し、CTやMRI、内視鏡検査など、高度な検査が必要な患者さまの病状把握のため、画像診断など共同利用の拡充を図っていきます。



登録医紹介ラック

東京都がん診療連携協力病院

当院は、区西部(新宿区、中野区、杉並区)の「東京都がん診療連携協力病院」として、地域がん診療拠点病院と連携し、がん医療水準の向上に協力しています。

外来化学療法 専門的ながん診療機能を提供する体制を整えています。

セカンドオピニオン 現在、他の病院におかかりで、診療や治療方針について、他の医師の意見をお求めになりたい方に対し、当院医師のセカンドオピニオンを提供しています。

ロボット手術 ダビンチ®は、患者さまの体への負担が少ない(低侵襲)手術を支援するロボットです。手術は執刀医がダビンチをコントロールしながら行います。当院は、前立腺がん及び大腸がんに対しさまざまな治療法がそろいました。

がん教育 がんを経験された方々の交流の場として「がん患者サロン」を開催したり、地域の小中学校に出向いて「がん教育」なども行っています。



ダビンチ®

放射線治療

がん治療の3本柱の一つである放射線治療を拡充するため、「トモセラピー」を導入しております。トモセラピーを用いた強度変調放射線治療(IMRT)により、「よりがんに厳しく、より体に優しい」高精度な放射線治療を行います。

受診を希望される患者さま 03-3269-8111(代表)に電話をしていただき放射線治療科受診希望とお伝えください(受付時間 平日 9:00~17:00)。その後「患者サポートセンター」におつなぎしますので予約確定してください。受診の際は「紹介状(診療情報提供書)」が必要です。かかりつけの医療機関から提供された画像データなどがあればご持参ください。

登録医の先生方へのご案内 患者さまから放射線治療のご希望がありましたら、ぜひご紹介下さい。その際に診療情報提供書及び今まで撮影されました画像をご提供くださいますようお願いいたします。



トモセラピー



ライナック



独立行政法人 地域医療機能推進機構
東京新宿メディカルセンター

救急総合診療

当院は、東京都指定二次救急医療機関として24時間救急患者さまの診療を行っています。また、緊急一時入院確保事業(新宿区、文京区)に参加し、地域の先生方(かかりつけ医)から入院が必要であると判断した患者さまは確実に受け入れる体制を整えています。救急室に24時間医師が常駐して、救急患者さまからのお問い合わせ、診療にあたっています。



救急車による受診 自力での受診が困難と感じられる状況では救急車(119番)を呼んでいただきますと、救急隊が救急総合診療部への連絡の媒介となってくれます。

直接受診 通常の外来の待合室で待っていただけない程のつらい症状で救急総合診療部の受診をご希望の場合には、病院代表までお電話の上、お越し下さい。

登録医の先生方へのご案内 先生方の診られている患者さまの状態が急に悪くなり、とくに入院治療が必要となった場合には、当院に通院していない患者さまでも、また診療科に係わらず、どうぞ「救急総合診療部」にご相談下さい。出来る限りの対応をさせていただきます。



救急総合診療部

リハビリテーション

当院のリハビリテーションは、専門医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、ソーシャルワーカーなどがそろい、これらの専門家がチームとなり診療活動をおこなっています。365日リハビリを実施しており、設備として、900平方メートルの訓練室、訓練機器、プールを備えています。脳血管、運動器の種々の疾患に対して、歩行等移動手段の獲得、生活の方法の習得、言語などコミュニケーション手段の獲得など、皆様の日常生活への復帰をお手伝いさせていただきます。また「回復期リハビリテーション病棟」があり、この病棟を患者さまにとっての「生活の場」と捉え、ご家族に復帰したときの生活をイメージした入院生活を送っていただきます。



理学療法室

健康管理センター(人間ドック、各種健康診断)・日本人間ドック学会機能評価認定施設

当院健康管理センターは日本人間ドック学会の認定施設であり、各科の専門医等ベテランの医療スタッフによって実施される人間ドック及び各種健康診断は高い信頼を得ています。

治療や精密検査が必要な場合も、病院の診療部門が引き続き責任を持ってフォローいたします。さまざまな病気の早期発見、ご自身の健康状態の把握、生活習慣を見直す機会に是非ご利用ください。



検査内容 問診／診察／血圧測定／視力・聴力検査／眼底・眼圧検査／血液検査／尿検査／糞便検査／心電図検査／胸部レントゲン検査／上部消化管レントゲンまたは内視鏡検査／腹部超音波検査／肺機能検査

オプション検査 子宮がん検査／HPV検査／乳がん検査／頸動脈超音波検査／動脈硬化検査／脳MRI検査／骨密度検査／肺がんCT・喀痰細胞診検査／大腸内視鏡検査／その他スクリーニング検査など①腫瘍マーカー②睡眠時無呼吸検査③軽度認知障害スクリーニング



患者サポートセンター

患者サポートセンターでは、ソーシャルワーカー、看護師、事務員が5つの内容(入退院支援・医療福祉、がん、地域医療連携、ご意見・ご要望)に応じております。相談内容については秘密を厳守し、患者さまやご家族が不利益を受けないように配慮いたします。

相 談 時 間 平日 8:30～17:00 (がん相談 平日 9:00～16:00)

入退院支援

医療福祉相談

がん相談(がん相談支援センター)

地域医療連携

ご意見・ご要望(医療安全を含む)



人材育成・人材開発

総合診療医 総合診療医を育成するために内科総合診療体制(チームG)を整えています。回診やミーティングを毎日行っており、常に身近に複数の専門医がいるという恵まれた環境の中、自ずと総合的視点からの診療を実践していくことができます。

研修医 当院は、医師臨床研修指定病院の認定を受け、臨床研修医を受け入れています。2019年3月1日付けでNPO法人 卒後臨床研修評価機構の認定を受けました。

看護師 2016年2月10日付けで厚生労働省より特定行為研修指定研修機関の指定を受け、研修を実施しています。病院には附属の看護学校があり、職業人としての看護師を養成しています(JCHO東京新宿メディカルセンター附属看護専門学校)。

東京都災害拠点病院

平成27年2月、東京都より災害拠点病院の指定を受けました。災害拠点病院は、地域の他の医療機関を支援する第一線の病院であり、日頃から様々な訓練を行い、災害に備えています。

災害派遣医療チーム(DMAT)の編成、薬品・食料・飲料水等の備蓄とともに、ライフラインが途絶した際も医療が継続できるよう、設備の充実、職員意識の向上を図り、災害に強い病院として、地域の皆様へ安心・安全をお届けできるよう努めてまいります。

病院機能評価

医療サービスは、医師や看護師などさまざまな専門職種のチームワークによって担われています。患者さまのニーズをふまえつつ、質の高い医療を提供していくためには、組織体として、機能の一層の充実・向上をはかる必要があります。当院では、そのような活動をさらに効果的なものにするために、一般財団法人日本医療機能評価機構による第三者評価を受審し、病院機能評価認定の交付を受けています。

チーム医療

糖尿病診療チーム

糖尿病は様々な病気の原因になるほか、そのコントロール状況は病気の治療や治癒に大きく影響します。当院では糖尿病以外の目的で入院された場合でも、全ての患者さまに糖尿病専門チームが血糖管理に関わり、入院治療がスムーズに行われるようにサポートしております。具体的には毎週1回、糖尿病担当医と糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師・管理栄養士・臨床検査技師が院内全病棟を回診し、糖尿病をもっている患者さまの経過についてチェックし、主治医や病棟からの要請に応じて診療に関わるシステムとなっております。また、特定行為研修を修了した看護師が専門チームに在籍しており、チームの中でみなさまの療養を支援しております。ご不明な点やご要望がありましたら、病棟看護師にお申し付けください。

※特定行為とは、医師の判断を待たずに、手順書に従って実践的な判断力や専門的な知識および技能を有する看護師が診療を補助することを指します。これは2025年には75歳以上の後期高齢者が急増することに備え、厚生労働省が定めた施策であり、38の医療行為が定められ、糖尿病領域ではインスリンの変更が可能となります。なお、実施する看護師は厚生労働省が定める研修を修了する必要があります。



独立行政法人 地域医療機能推進機構

東京新宿メディカルセンター

感染制御チーム

抗菌薬適正使用

当院では、抗MRSA薬・一部抗菌薬について届出制としています。採血・画像・培養結果などをあわせ、感染制御チームでカンファレンスをおこない適正な治療を提供できるよう努めております。

標準予防対策の徹底

患者さまや病院に出入りするすべての方を医療関連感染から守り、病院で働く職員を職業感染から守るために、手指衛生の徹底・个人防护用具の正しい使用方法を周知しています。

感染管理教育

職員全員が、適切に感染対策を実施し、医療関連感染から患者さまを守るために、感染性胃腸炎・インフルエンザ対策などの感染管理教育をおこなっています。

褥瘡対策チーム

褥瘡対策チームは、褥瘡の治療および予防対策と褥瘡ケアの充実のため、活動しています。週1回の褥瘡回診と多職種によるカンファレンスにより、早期治療に向け、最善の処置や予防方法について議論し、助言や提案をしています。NSTとも協働し、栄養改善についても合わせて検討しています。褥瘡ハイリスク患者様に対しては、褥瘡管理の専従者が重点的な予防対策を個別に立案し、主治医、病棟スタッフとともに、最善のケア提供のため、適宜検討しながら実践につなげています。入院患者様全員が、健やかな入院生活が送れるよう、基本的スキンケアを推奨しています。

緩和ケアチーム

がん患者さまの抱える苦痛は身体的苦痛以外にも精神的、社会的、苦痛などがあり、幅広い視点でがん患者さまおよびご家族をケアする必要があります。そのためには主治医だけでなく、さまざまな立場からの関わり、すなわちチームでの医療が大切です。当院では多職種からなる緩和ケアチームがあります。主治医やその他のスタッフ、あるいは患者さまからの希望により緩和ケアチームが往診しています。また当院は緩和ケア病棟を有しており、チーム医療を提供する一方で、より専門的で集学的な緩和ケアもおこなっております。がん患者さまの多様なニーズに応える上でも、チームと緩和ケア病棟がそれぞれの特徴を生かしながら、より良い緩和ケアを提供していきたいと考えております。

術後疼痛管理チーム(Acute Pain Service : APS)

当院では術後疼痛管理チーム(麻酔科医・手術室看護師・薬剤師)が、術後の痛みや吐き気の対策を行っています。院内全体での術後疼痛管理の質の向上を目指し、教育的な周知活動も実施しています。

患者さまもチームの一員との考えの元、対象患者さまに術前説明の後、術後3日目まで直接訪問し、患者さまの生のお声に耳を傾け、主治医と相談の上、痛みや吐き気のない術後を過ごしていただくための薬剤調整を行っています。さらに、病棟看護師・病棟薬剤師・緩和ケアチーム・認知症サポートチームと連携し、早期離床・早期回復を多角的に支援できるよう活動しています。

栄養サポートチーム (Nutrition Support Team : NST)

栄養サポートチームでは、栄養状態を整えることによる治療効果の向上、感染症や合併症の予防などを目的として各職種が集まり活動しております。週一回のラウンド・ミーティングでは、入院患者さまの栄養状態を評価し、患者さまの状態に合わせた食事調整や経腸栄養・静脈栄養の方法・内容について検討をおこない、適切な栄養療法について提案しております。また、胃瘻・腸瘻・中心静脈ポート等の造設・管理についても、相談・依頼を受け付けております。

脳卒中チーム

脳神経外科、脳神経内科、リハビリテーション科、看護部が連携を強化し、脳卒中を含めた脳疾患(頭部外傷や脳腫瘍)の医療を行うため発足しました。脳卒中は、高血圧などの生活習慣病に起因することが多く、予防、治療、再発防止の内科的治療が極めて重要です。脳神経内科医がチームに加わることで、専門性がより高まると考えます。入院に備え、24時間365日の日当直体制を敷いていますので発症直後からの専門医の治療、超急性期治療(tPA療法、血栓回収療法)、急性期リハビリテーションが可能になり、予後向上に大きく寄与できます。

認知症ケアチーム

当院では、患者さまの苦痛を減らし、治療を円滑に進めることを目的として2019年6月に認知症サポートチームを立ち上げました。入院時に認知症の症状やせん妄発生のリスクはないか評価を行い、認知症症状による療養への影響やせん妄発生のリスクがある患者さまを対象にラウンドを行っています。ラウンドは認知症看護認定看護師を中心に、精神科医、脳神経内科医、栄養士、ソーシャルワーカーがチームとなり行います。認知機能の低下した患者さまにとって療養生活には、病気そのものの苦痛のほか、慣れない環境で過ごす不安や心配、時には治療上やむを得ず行われる身体拘束など、苦痛や不安の原因が多岐に存在します。そのような患者さまのお困り事が最小限となり、安心して療養できるよう、看護や治療についてチームで検討し、病棟スタッフにアドバイスを行っています。

摂食嚥下チーム

さまざまな原因で生じる摂食嚥下障害は、低栄養を引き起こすほかに誤嚥性肺炎のリスクが高まります。当院では摂食嚥下障害が疑われる入院患者さまに他職種から構成される摂食嚥下チームが介入させていただいております。チームでは嚥下機能評価を行い食事形態の調整やリハビリテーションの実施を行っています。また、安全においしくお食事をしていただくために、口腔衛生管理や口腔機能管理も実施しています。嚥下機能評価では嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査を実施しており、患者さまの摂食嚥下機能に合わせたお食事の提供に努めています。当院では、日本摂食嚥下リハビリテーション学会の嚥下調整食分類に沿った内容で4種類の嚥下調整食を提供しております。また、退院後に地域の先生方やその他の皆様との情報共有のため、管理栄養士より推奨される嚥下調整食の写真・レシピを付けた栄養情報提供書をお渡ししています。

外来の患者さまにつきましても、『食事をするとむせる、飲み込みづらい、咀嚼しにくい、食事に時間がかかる』などお食事に関するお困りごとがございましたら、専門外来で対応致しますのでご相談ください。

看護部 専門的な看護の提供

■スペシャリスト

高度化し専門分化が進む医療の現場において、当院には、専門看護師2名、認定看護師14名、そして特定行為研修修了看護師28名のスペシャリストがおり、各分野での専門的な看護実践を行うとともに、患者・家族の方々の問題や疑問の相談に乗り、最適な看護を行えるよう努めています。

また、医師を含む多職種からなるチーム医療においては、キーパーソンとしてリーダーシップを発揮し活躍しています。さらに、院内にとどまらず、地域で活躍されている医療従事者を対象とした地域支援活動を行っており、各種ご相談や研修などの活動を通して、地域住民への良質な看護提供を目指します。



* 専門看護師		* 認定看護師		* 特定行為研修修了看護師	
がん看護	1名	クリティカルケア	1名	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	19名
慢性疾患看護	1名	感染管理	3名	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	14名
		糖尿病看護	1名	呼吸器(気道確保に係るもの)関連	1名
		認知症看護	1名	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	1名
		皮膚・排泄ケア	3名	感染に係る薬剤投与関連	3名
		緩和ケア	4名	透析管理関連	3名
		手術看護	1名	創傷管理関連	4名

■看護外来

外来通院をされている方へ専門的な看護を提供するために、専門看護師・認定看護師・特定行為研修修了看護師による『看護外来』を行っております。ストーマ、糖尿病、フットケア、がんについてお悩みの方は、主治医もしくは看護師にお声掛けください。

ストーマ外来	ストーマを造設した患者さまが、装具の調整をしながらご自分の生活が取り戻せるように支援しています。
糖尿病・生活相談外来 フットケア外来	糖尿病患者さまが生活習慣を見直し、自分にあったより健康的な生活ができるように、共に考えます。 糖尿病の合併症を予防するためにフットケアを行っています。
がん看護外来	がんを抱えながら自分らしく生きることができるよう、治療による副作用や苦痛症状への対処、気持ちのつらさ、治療選択に対する意思決定支援を行っています。



■訪問看護師への同行訪問

専門看護師・認定看護師が訪問看護師に同行し、専門的なケアの提供を行っています。ご希望の方は、看護師にお申し出ください。ご自宅での療養をサポートさせていただきます。

褥瘡・ストーマ、創傷ケア	皮膚・排泄ケア認定看護師
がんによる苦痛緩和・化学療法の副作用へのケア	がん看護専門看護師 緩和ケア認定看護師 がん性疼痛看護認定看護師
摂食・嚥下に関するケア	摂食・嚥下障害看護認定看護師



■地域の方への健康教室実施、地域との連携として認知症患者さま3つのオレンジを活用

地域の皆様の健康管理や啓発活動の一環として、健康教室やポスター展示、高齢者相談会などを実施し、地域で暮らす皆様の健康を支えています。また、地域活動として神楽坂の「阿波踊り」や「防災まつり」に積極的に参加しています。認知症患者さまや、病院に不慣れな方、困りごとがある方を支援する、3つのオレンジを活用したオレンジチーム活動を推進したり、病院薬剤部では、地域の調剤薬局との薬業連携により、薬剤療法の安全と質向上を目指しています。



■シームレスな医療、多様なニーズに応える病棟

回復期リハビリテーション病棟 対象疾患について長期間の入院訓練が必要なものには回復期リハビリテーション病棟に移って訓練を続けます。

地域包括ケア病棟 在宅に向けて準備が必要な方、回復期対象外のリハビリテーション入院もお受けしています。在宅からの入院の相談も可能です。

緩和ケア病棟 「がん」そのものの治療が困難となった方で、緩和ケア病棟の趣旨を理解されている方が入院の対象となります。痛みをはじめとする様々なつらさを和らげて穏やかに過ごしていただくことを目的としています。入院を希望される方には、初めに緩和ケア外来を受診していただきます。

がん相談支援センター 03-3269-8137(直通) 受付時間:平日9:00~16:00

■訪問看護ステーションないる

当院の看護師がご自宅に伺って看護を提供、在宅での医療を支えます。

- ①病状や体調の観察 ②血圧や脈拍などの測定 ③薬の管理
- ④療養生活や介護方法の指導・相談
- ⑤日常生活の支援(食事・排泄などの介助、身体の保清など)
- ⑥医療措置(胃瘻やカテーテル類の管理、褥瘡や傷の処置、在宅酸素の管理、点滴、ストマケア、膀胱留置カテーテル、人工呼吸器、吸引)
- ⑦その他医師の指示による医療措置 ⑧リハビリテーション
- ⑨ターミナルケア ⑩家族ケア

かかりつけ医やケアマネージャー、ヘルパー、地域の相談窓口などとも協力してサポートします。費用は各種保険制度の適応となりますのでお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせはこちら



営業時間 平日9:00~17:00



■附属看護専門学校

病院に隣接した附属の看護学校で看護師を養成しています。1学年40名の少人数制で、高校を卒業したばかりの学生から社会人経験者、男子学生まで様々な生活背景をもつ学生が看護師を志し、お互いに励まし合いながら、学業に励んでいます。また学年の垣根を越えて学生同士が交流しやすいようにチューター制を導入し、互いの学習意欲を高めています。

卒業生が就業している東京新宿メディカルセンターで実習を行い、医師や看護師、コメディカルと連携しながら最先端の医療や看護について教育しています。

